

クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより



第28号 (H29.6月発行)

今月のトピックス

流域下水道管路を活用して下水熱を利用できる制度ができました

下水道には様々な資源があります。諏訪湖流域下水道でも、下水汚泥を消化して発生する消化ガス（メタンガス）の燃料利用や、水処理施設の屋上を貸出して太陽光パネルを設置する取り組みなどを行っています。

その一方で、まだ活用していない資源のひとつに「下水熱」があります。下水道管路に流れる下水は、年間通じてほぼ温度が一定であり、外気に比べて夏は冷たく、冬は温かいという特徴を持っています。この温度差エネルギーを冷暖房や融雪などに利用しようという動きが全国的に広がっています。

流域下水道の管路は、口径も大きく、大量の下水が流れており、エネルギー利用には大きな可能性があります。そこで長野県では、民間事業者が流域下水道管路に熱回収設備を設置して、下水熱を利用できる制度をつくりました。

下水熱利用の流れ



事務手続きについては、諏訪湖流域下水道のホームページをご覧ください

<http://www.pref.nagano.lg.jp/suwakoryuiki/shinse/index.html>